



東小学校便り

PLUS

# 木 洩 れ 陽 +

令和5年12月18日 No.8

12月も残り10日余りとなりました。早いもので、あと5日もすれば子ども達は冬休みに入ります。東小学校では12月に入ってすぐインフルエンザが流行し始め、一時期8クラスが学級閉鎖になりました。今では罹患者が減ってきましたが、これからも予防に気を付けてほしいものです。

さて、11月の末に、ボランティア感謝集会を開きました。当日は読み聞かせボランティア「母笑夢」の皆様、のべおか励まし隊の皆様、学校安全ボランティアの皆様、学校運営協議会の皆様等、30名近い方が来校されました。普段お世話になっている地域の皆様に、全校児童が心を込めてお礼の気持ちをお伝えしたところです。それに関連して、今年の稲刈りの後に5年生児童が書いた作文を紹介します。

「さあ、稲刈りだ」

5年 山田獅恩

ぼくの目の前には、黄金色の田んぼが広がっている。ぼくたち5年生は6月に田植えをした。あれから4ヶ月すぎたことになる。時間がたつのは何て早いんだろう。

「さあ、稲刈りが始まるんだ。」

最初は濱田憲司さんのお話だ。濱田さんは田んぼの管理をして下さり、ぼく達を支えて下さった方だ。稲の刈り方をくわしく説明された。ぼくはさっそくカマを持った。稲の根元は思った以上にかたかった。だが、何回も刈っているうちに、コツが分かってきた。下から上にななめに引けばいいんだ。刈った稲はコンバインに入れる。このコンバインは、地域の寺田勝彦さんが準備してくれた。昔の人が手作業でしていたモミ取り作業を、機械であつという間におわらせてくれる。時代は変化しているんだ。

今回の稲刈りを通してぼくは思った事がある。昔の人は稲の実った田んぼを見たとき、どう思っただろうか。

「やった。実ったぞ！」

きっと、こんな風にさげんだかもしれない。

